

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市市民の森基本計画検討委員会				
事務局 (担当課)		環境経済局 経済部 津久井地域経済課 電話 042 - 780 - 1401				
開催日時		平成28年2月23日(火) 14時30分～16時00分				
開催場所		緑区合同庁舎 会議室3 - 1A・B				
出席者	委員	8人(別紙のとおり)				
	オブザーバー	3人(別紙のとおり)				
	事務局	4人(別紙のとおり)				
	支援業務受託者	2人(別紙のとおり)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由		公開				
会議次第		1 開 会 2 議 事 (1) 相模原市市民の森基本計画について (2) その他 3 閉 会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(発言者： 委員長、 委員、 オブザーバー、 は事務局、 支援業務受託者)

1 開 会

津久井地域経済課長より開会宣言を行った後、会議の成立の報告を行った。また、会議の公開について諮り、了承を得た。

以後、委員長により進行が行われ、傍聴希望者の確認を経て、1名の傍聴者の入室が許可された。

2 議 事

(1) 相模原市市民の森基本計画の検討について

事務局より、資料「相模原市市民の森基本計画について」に基づき、第3回検討委員会からの修正点を中心に概要説明を行った後、質疑応答が行われた。

資料構成

- 1 基本計画策定の基本的考え方
 - 1 - 1 計画の背景と目的
 - 1 - 2 対象地及び周辺の状況
- 2 基本計画
 - 2 - 1 基本方針
 - 2 - 2 計画内容
 - 2 - 3 実施工程
- 3 管理運営の考え方
 - 3 - 1 管理・運営主体のあり方
 - 3 - 2 管理・運営の基本方針
 - 3 - 3 マネジメントの内容
- 4 最終形へ向けた整備の方向性・将来像
- 5 参考資料
 - 5 - 1 計画策定の経緯
 - 5 - 2 民間事業者等との協働による施設マネジメントの事例

説明概要

- ・ 第3回検討委員会における意見などを基に、いくつかの観点からの整理を行った。
- ・ 一点目は「市民に親しみやすい計画書づくり」ということで、語句のヒン

トを文中に追加した。また、将来の絵姿がイメージしにくいという意見があったため、イメージ図の作成を行った。

- ・ 二点目は、「第2章 基本計画」の構成の変更と内容の追加ということで、「動線計画」から「全体計画」へという流れで示していたものを、全体計画の整理が先行すべきとの指摘に基づき、全体計画から動線計画、施設の配置計画へという流れに修正した。また、管理棟の平面図については、現段階では機能がわかればよいとの意見に基づき、機能図に変更を行った。概算費用の算定についても、今後の具体的な検討に併せて行うこととした。
- ・ 三点目は、第三章の管理運営の内容について、NPO等団体へのヒアリング結果を追加したほか、持続可能な管理運営に向けて、様々な事例を引用した提案を行うなど、内容の充実を図った。
- ・ 四点目は、最終的に目指すべき整備イメージについての意見があったため、「第四章 最終形へ向けた整備の方向性・将来像」の追加を行った。

資料2ページの赤枠で囲っている第一段階部分の時間的な計画はどうなっているのか。

平成31年までには、拠点施設の整備に着手するものとしている。基本構想においても表示しているが、そこでこの活動スペースの整備に着手をしていくというイメージで表現している。平成31年度までに整備が終わるということではない。

資料58・59ページのイメージ図は、南北が逆になるので、方位記号を入れるなどの工夫が必要ではないか。

ガイドウォークを行うなどと書かれているが、NPO等のメンバーも高齢化している状況にあって、実際に継続的な協力が得られるのか心配である。担い手が確保できるのか。

安全柵に擬木が使われていて、がっかりすることがある。市民の森の木を使うなどの配慮が必要ではないか。

図面の方位に関して、前の方のページでは北を上にしてしたが、イメージ図については、実際に入口に立った状態での分かりやすさという観点から、この方向にしている。方位を表示する形で整備したい。

担い手づくりも事業のうちと考えている。担い手を増やしていくという中で、みんなで活用していくことになればいいと思っている。

安全柵などは、市民の森の木をできるだけ利用する方向で考えていきたい。

石老山の案内用の冊子は急ぎょ作ったものか。よくできている。こういうものがあると親近感が増す。親しみを持てるようにしていくことが必要と考える。

47ページにある運営事業者というのは指定管理者のことか。

54ページのイメージ図の中に表示されている点線は何か。

市内にも林業体験ができる場があるとよいと思う。

石老山の冊子は、皇太子が登るときのために、急遽、観光協会の事務局がつくった。前からあったものに少し手を加えて作成した。写真は撮り直した。

運営事業者の最終的なイメージは、指定管理者と考えている。

イメージ図の中に表示している点線は、現状は通れるが、市民の森の中の歩道ではないルートを示している。

学校との関係をもう少し書き込めないのか。

イメージ図の点線表示などの凡例を付けられないか。

基本構想では、学校利用による環境教育は第二段階、第三段階に位置付けて、記述も行っているため、第一段階ではまだ学校との連携までは入れてない。第二段階、第三段階に進む中で、エリアも含め中心的に考えていきたい。

将来像の中に表示している点線や、線の表示の違い、方位などは入れていきたい。

神奈川県全体での位置を入れられないか。

検討したい。

位置関係を示すには、道志川と相模川を入れることが望ましい。また、道志川の上方には小野林道があり、その終点から新戸や牧馬を経て、篠原方面にもつながっている。高塚山方面から国有林道や南側に下りる道もあるが、聞くところでは、人が入らず傷んでいる場所もあるようだ。

図面を少し修正すれば、道志川と相模川、国道413号を示すことはできると思われる。それ以外は、どのように対応できるのかを検討したい。

今のイメージ図と委員からの意見をうまく整理して頂ければと思う。

担い手の高齢化は、重要な問題であり、早急に担い手の育成・確保に取り組む必要がある。

また、指定管理者は、入札で事業者が変わることから、ノウハウが途切れてしまうことが懸念される。管理運営の根幹はしっかりと市がおさえていく必要がある。

指定管理者制度を導入した場合でも、施設管理の責任はあくまでも市にある。運営に関しても、47ページの図にあるように、「市民の森連絡会」を通じてしっかりと全体の連携を図っていくように考えている。

50ページの資金について、自然環境管理の例で示されている「協力金」などは、来訪者の意志に依存するものであるため、活動プログラムの参加費など、根本的なお金を集める仕組みも提案した方がよい。

当然、指定管理者としての事業収益は視野に入れた中で、プラスアルファの部分を中心に書いている。その他の部分については、盛り込みについて検討したい。

津久井産材の利用拡大と言われるが、そのためには出口である“利用”が重要である。津久井産材と言っても、自治会掲示板への利用くらいしか思い浮かばない。もっと様々な利用につなげていけるとよい。

全国に通ずる言葉ではないが、相模原市で伐採したものを「津久井産材」と呼んでいる。現在、国の補助金を使い、関係事業者でグループをつくり、津久井産材を使った家づくりに取り組んでいる。

また、津久井産材の流通を促進するため、ストックヤードの整備も行っている。

市民が来た時に、津久井産材で作ったものを見たり買ったりできるとよい。

また、チップでは、どういうことをするイメージなのか。

56ページに、津久井産材で作ったものを見たり買ったりするようなイメージを示している。

チップについては、市民の森のなかでは、燃料や園内に敷くなどの活用が考えられる。

この市民の森が、津久井産材のショーウィンドウの役割を担うような意識で考えてほしい。

20ページのロビー兼多目的スペースに、津久井産材の利用をPRする展示機能を盛り込みたい。

観光協会でも様々な取組をしているが、高尾山からなかなか人を誘致できない。頂上に登って戻ってくるだけではなく、周遊できるとよい。その意味でも道の整備が重要だと考えている。

そういう観点からも、ウォーキングゾーンを第一段階で行うことになっている。基本計画の中では、魅力あるルートづくりについて、提案を行っている。

森の中に遊具などをつくるのは大変だが、学校との連携ということで、学校側の希望する活動などを聞く機会は考えないのか。

整備に着手するまでには、何らかの形で意見を聴いていきたいと考えている。

関川林道は市営なのか。

市営林道である。底地は民地もあるが、林道としての利用については、地権者の承諾を得ている。

本日出された意見を踏まえて修正を行い、答申に臨みたい。市民の森に着手するための基本計画の案としては、幅広い内容を盛り込むことができ、結構ユニークな報告書になったと思う。具体的に市民の森をどのように作っていくかを示すことができていると思っている。市民や民間と一緒に作っていく流れが示せたのではないかと考えている。

(2) その他

事務局から今後の流れについて、本日の意見を基に、最終的な内容調整を委員長と事務局で行い、3月中に市長への答申をいただきたいと考えていること、また、答申の際は、正・副委員長に対応願いたいと考えていることを説明し、了承を得た。

経済部長より、検討委員会の終了にあたってのあいさつを行った後閉会した。

以上

相模原市市民の森基本計画検討委員会名簿

< 委 員 >

区 分	氏 名	所 属 団 体 等	出 欠
学識経験者	下村 彰男	東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授	○
自治会連合会	竹田 幹夫	相模原市自治会連合会 監事	○
相模湖地区 まちづくり会議	穴吹 正男	相模湖地区まちづくり会議 理事	○
森林組合	坂本 重光	津久井郡森林組合 代表理事専務	○
観光協会	永井 宏一	一般社団法人相模原市観光協会 副代表理事	○
まち・みどり 公社	諏訪 秀男	公益財団法人相模原市まち・みどり公社 事務局長	○
公募委員	伊倉 太輝	市内在住	○
	高橋 陽子	市内在住	○

< オブザーバー >

氏 名	所 属 団 体 等	出 欠
石井 洋三	神奈川県県央地域県政総合センター 水源の森林部長	○
大矢 雅之	神奈川県県央地域県政総合センター 農政部 森林保全課長	○
厚沢 明宏	神奈川県自然環境保全センター 研究企画部 自然再生企画課長	○

< 事務局 >

氏 名	所 属 団 体 等	出 欠
谷 圭介	相模原市 環境経済局 経済部 部長	
若林 徹	相模原市 環境経済局 経済部 津久井地域経済課 課長	○
黄木 正彦	相模原市 環境経済局 経済部 津久井地域経済課 総括副主幹	○
榎本 晴男	相模原市 環境経済局 経済部 津久井地域経済課 主査	○

< 相模原市市民の森基本計画策定業務委託受託者 >

氏 名	所 属 団 体 等	出 欠
川原 伸朗	株式会社オリエンタルコンサルタンツ 担当主監	
荻野 太一	株式会社オリエンタルコンサルタンツ 技師	○